

# 1. 評価報告概要表

作成日 2009年11月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1071100158
法人名	医療法人 信愛会
事業所名	グループホームきらら
所在地	安中市鷺宮203 (電話) 027-382-7506

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年10月22日

## 【情報提供票より】(平成21年8月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	電気器具持込代1点につき1,050円/月 水道光熱費13,000円/月	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日1,200円				

### (4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 85歳	最低	66歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 信愛会 本多病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域の人に支えられて共に歩む施設を目指す」を理念に、農家から新鮮な野菜を届けてもらったり、運営推進会議で、災害時に地域の協力を呼びかける等の取り組みを始めている。また、利用者の生活歴や趣味を参考に、得意とする部分や興味を引き出し、野菜の苗の植え方やオルガンを弾いて歌の伴奏、雑巾縫い等、一人ひとりの力を引き出し、その人らしく毎日が送れるよう支援している。「このホームで最後まで」の家族の希望に対しては、全職員で看取りに対しての勉強を行い、隣接している法人の病院と医療連携をはかりながら、希望に添えるよう努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題は、職場会議で話し合い、理念の見直しに取り組む・外部の相談窓口の掲示・自己評価を全職員で取り組む等、具体的な取り組みをしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の自己評価票を全職員に配布し、現在の取り組みについて職員一人ひとりに「自分としてどう思うか」補足してもらい、それを基に2ユニットの管理者2名で取り纏めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催、事業所から利用者の状況、行事予定、外部評価結果等を報告、メンバーより外出行事の行き先の提案や、老人会行事への参加呼びかけ等、意見が出されている。また、事業所から、災害時の地域の協力を呼びかけたり、会議を活かす取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置し、外部の相談窓口を各ユニットごとに掲示している。家族の意見や要望等は直接聞くことが多く、家族から「着ている衣服について」等の要望には、職員が状況を説明し理解していただく等話し合いをしながら対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>理念をもとに地域との関わりに努め、昨年夏より育成会実施の廃品回収に協力している。また、利用者、数名の「いきいきサロン」の参加を支援したり、地域農家から新鮮な野菜を届けてもらったり、事業所の鍋煮会にその地域農家や家族を招待したりして、地域との交流に取り組んでいる。また、毎月ボランティアの受け入れも行っている。今後さらに、地域の行事に利用者と職員が一緒に関わる等の機会づくりに努め、利用者や地域の人々が交流する機会づくりを期待したい。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度、理念の見直しに取り組み、全職員にアンケートを実施して投票を行い、「地域の人に支えられ共に歩む施設を目指す」の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関と事務室内に掲示されている。3ヶ月に1回職員全体会議を行い、理念に基づくチームケアの重要性を話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	理念をもとに地域との関わりに努め、昨年夏より育成会実施の廃品回収に協力している。また、地域農家から新鮮な野菜を届けてもらったり、「いきいきサロン」参加の利用者数名の支援や事業所の鍋煮会に地域の方や家族、野菜農家の方を招待して、地域との交流に取り組んでいる。また、毎月、歌・紙芝居等のボランティアの受け入れもしている。	○	利用者と職員が、地域の行事等に参加し、直接地域の人達とふれあう場づくりに努め、さらに交流を深めることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価票を全職員に配布し、現在の取り組みについて職員一人ひとりに「自分としてどう思うか」補足してもらい、それを基に2ユニットの管理者2名で取り纏めている。前回の改善課題は、職場会議で話し合い、理念の見直し、外部の相談窓口の掲示等取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、会議のメンバーの他、職員も参加できる時にはできるだけ参加するようにしている。会議では、事業所から利用者の状況、行事予定、外部評価結果等の報告を行い、メンバーより外出行事の行き先の提案や老人会行事への参加呼びかけもあり、職場会議で話し合っている。また、事業所から、災害時の地域の協力を呼びかける等、会議を活かす取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のケアプラン検討会に毎月参加し、他施設の困難事例報告等を参考にしている。また、利用者のストレス解消となればと介護相談員を受け入れている。市担当者には、電話で事業所の空き情報を伝えると共に情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態等は、面会時や電話で伝えているが面会に来る家族は少ない。金銭管理は、預かり金が一定額以下になった時に電話で連絡し、面会時に領収書を渡し報告している。	○	面会に来られない家族等を考慮して、すべての家族に利用者の暮らしぶりや事業所の取り組み等を伝える方法の検討を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、外部の相談窓口を各ユニットごとに掲示している。家族の意見や要望等は面会時直接聞く様にしている。「着ている衣服について」や「物取られ妄想に対して」の意見は、職員が状況を説明し理解していただく等話し合いをしながら対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動は行っていない。新規採用職員には、1～2ヶ月の間、管理者がついて指導し、夜勤は2人体制で行っている。家族へは面会の際に新しい職員を紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の基礎研修・実践研修等に、職員の経験に応じ参加している。また、講演会等に参加し、研修参加後は報告書を作成し、伝達講習を行い全職員のものとするよう取り組んでいる。法人内においても、ターミナル処置や救急法について勉強会を開催し職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入後、しばらく休会状態であったが、今回のグループホーム大会から参加している。また、交換研修については来年からの参加を考えている。安中市主催のケアプラン検討会にも参加している。	○	他のグループホームへの見学や相互訪問等で事業所以外の人達との交流を通して、意見や経験をケアに活かされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急な入居であっても一度は見学していただくよう説明している。入居後は、職員が利用者とのコミュニケーションの橋渡し役として会話のきっかけをつくる等している。また、利用者家族には、入居後1週間程は連絡を密にして家族の不安を取り除くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や趣味を参考に得意とすることができるよう、中庭での野菜づくりの苗植えを教えていただき、事業所で使う雑巾を縫ってもらったり、オルガンを弾き合唱の声かけをしていただき、利用者の力を活かした生活が送れるよう支援している。また、労いの言葉を頂くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族に暮らし方の要望等を聞くと共に、本人の生活歴、趣味や好きだったこと等を参考にアセスメントを行っている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は介護計画作成の担当利用者を2名受け持っており、家族の意見や回診時医師の意見を聞き、月2回のカンファレンスで今の状況等を説明し、今後どうしていくかも職員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、1ヶ月毎にモニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しを行っている。日常生活動作が低下した時や、被害妄想等問題があるときは家族も入れ話し合いを行い随時見直しを行っている。介護計画は面会時に家族等に説明し、サインをいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設病院の売店に買い物に行ったり、理美容業者や衣料用品店を受け入れて、利便性だけでなく利用者の楽しみの機会を支援している。また、今後選挙ができるよう整備していくことを検討している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関の受診をしている。かかりつけ医の受診は基本的には家族の付き添いだが、家族の事情により職員が対応している。受診結果は、家族に報告、または家族からも報告を受けている。併設病院の医師は週1回全利用者の回診を行い、急変時の往診も対応でき、また夜間対応も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関するマニュアルを作成し、ホーム内で看取りに対する勉強会を開催し全員で方針の共有をしている。これまで、数名の看取りを行っている。重度化した場合には家族と医師の間で話し合い、今後どの場所でターミナルを迎えるのか決め、緊急時に備え家族等の話し合いは、記録に残している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重した呼称や声かけ等を行いプライバシーを損ねないよう対応している。記録は、利用者や外部者の目の届かない、事務室内に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく、食事はその人のペースでとれるように見守っている。また、外出傾向のある利用者には職員が付いて行く等、利用者の気持ちや行動を制限することなく支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居間兼食堂に、利用者と職員で書いた献立を掲示している。食材は、農家からの新鮮な野菜を使用したり、中庭で収穫したじゃがいも等も使用している。食材切り、味付け、テーブル拭き、おぼん拭き等を一緒に行い、利用者と職員は同じテーブルで食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回午後の時間帯である。入浴を拒む利用者が多く、職員が交替しつつ声かけをする等の工夫をして入浴を促すよう支援している。また、入浴剤を入れたり、季節のゆず湯等を行っている。汚染時等には、シャワー浴を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望により、書道を行う等の支援をし、書道を行うことにより他の利用者も興味を示し、ほとんどの利用者が楽しく行えるよう支援している。また、中庭にある畑を利用し、農業の経験を活かし作物作りや菊の花の水遣りをしていただき、「花が咲いた」「いくつ咲いている」と会話にでる等楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の前は坂道であり、散歩に出るには困難な状況のなか、併設病院の売店に買い物に出かけている。また、中庭には自由に出て、畑の野菜や花に水やりをしながら日光浴をしている。また、2ヶ月に1回行事等を開催し、りんご狩りや大塩湖や碓氷湖、アイリスの丘等への外出を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者にストレスを与えないよう鍵をかけないケアを行っている。日に20回～30回程外に出てしまう利用者に対しても行動の見守りと玄関のチャイムにより、職員と一緒に出かけ付き添うよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者も参加して防災訓練を行っている。夜間を想定した訓練も実施し、事業所内には避難経路や避難訓練の様子が掲示され喚起している。訓練には、区長・民生委員・老人会長も参加され、災害時、地域の人々の協力が得られるよう運営推進会議で呼びかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は体温等の記録とともに記録している。また、必要時尿量を記録し、体重測定をしている。水分摂取は、10時と15時に行い、水分摂取量にも気をつけている。食事は利用者の状態にあわせて、キザミ食や粥を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は光が入り明るく、畳コーナーもあり、テレビやオルガンが置かれている。廊下、トイレ、風呂場も広く開放的である。利用者が書いた書道やぬり絵等が居間の壁に飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた物を持ってきていただき、テレビ、洋服かけやコーヒーセットが持ち込まれ、レクリエーションで作った作品が貼ってあり、居心地良く過ごせるように工夫している。		